

### 「面瀬の地名由来」

地名由来についてはどの地でも多種あつてなかなか断定しがたい。面瀬と言う地名も単純に川の瀬に面した地などと考へてはならない。しかし確たる由来とは言い難いが、二、三の面瀬地名由来を得たのでここにあげてみたい。

#### 一 「面瀬」名の出自

江戸時代に仙台藩伊達氏が安永期（一七七二〜）に行つた知行毎の実態調査を安永風土記もしくは御用書出という。この書物に松崎村についての記述があり、松崎村を構成する一地区として「面瀬」が記述されている。さらに古くは面瀬・大前「熊谷家文書」に、寛永十八年（一六四六年）の検地を受

けて「上面瀬屋敷」として藩から認められたと記してある。これらから「面瀬」名は江戸時代の初期もしくはそれ以前からあつたものと思われる。

▼安永風土記写真▼



#### 二 文化元年「松崎往来」

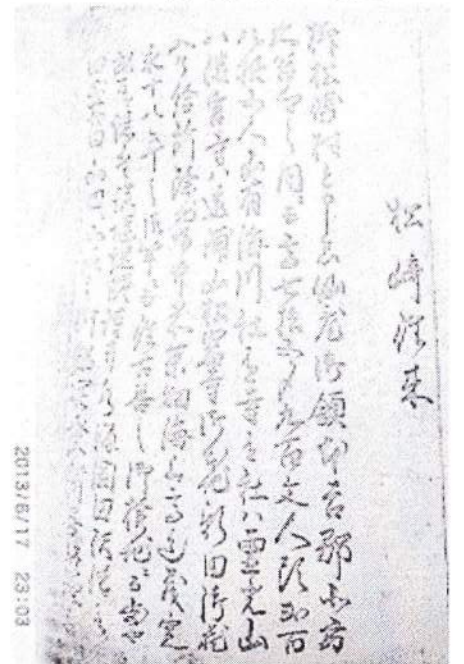
その注釈文「松崎左我志（さがし）」から川名から地名を検証してみたい。

文化元年（一八〇四年）の「松崎往来」。

この注釈文「松崎左我志」には、松崎村にある川名として「傾城川」があげられている。面瀬川とはしていない。寛永十八年御地御竿答（検地）の登録者として「面瀬屋敷平右衛門」の名は見られる。地名もしくは屋号に面瀬を使用している。

前項で紹介した安永風土記の「松崎邑（むら）」の記述では、松崎村には二つの川があり一つは赤柴山（現上沢地区）を源流とする宇奈多川（現中瀬川らしい）で「傾城川」に合流するとある。安永風土記でも面瀬川とは言っていない。

▼松崎往来：写真▼



三 傾城（けいせい）から

傾城とはまさしく城を傾けると言う意味であり、美女をさす。面瀬川の面瀬（おもせ）は傾城（けいせい）が音変化したものだという。では、いかなるわけで傾城なのか。実は、ここ三陸一帯が奥州藤原期から金の産地であったことに深く関係する。つまり、財あるところ美女ありということである。この

傾城美女たちが化粧に使った紅が川を流れていたので傾城川といった。この傾城川から面瀬川に音変化したという説である。面瀬川の古名である傾城川は約千年の歴史をもつとも言える。いつ傾城川から面瀬川に呼名されたかは不明である。傾城のいた証拠に、古跡「紅すり石」が現存する。



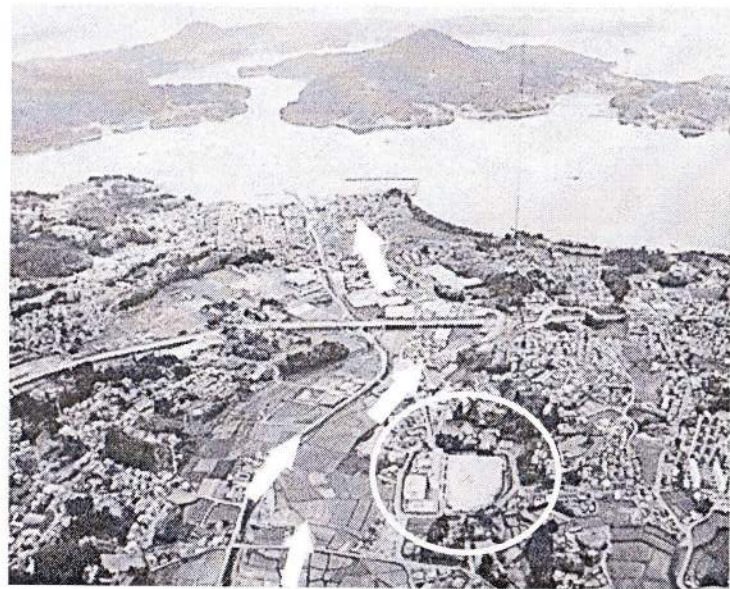
▲紅摺石：写真▼



#### 四 「傾城」と「面瀬」

一と二と三をあわせ見ると、地名としての「面瀬」は、「傾城」とは別に存在していたように思われる。ただ、往古千年の歴史の中で、言い伝えのように、もしかすると「傾城川」から「面瀬川」に音変化させ面瀬川沿いに地を構えた人が、「面瀬」という地名もしくは屋号をつけたのかもしれない。

かくに面瀬の地名由来を訪ねると、不明点が多く、今後の発掘資料を待つのみだ。それにしても地名由来を訪ねることは面白いことではある。気仙沼弁では「おもせえ」ことだ。



▲ 現面瀬地区航空写真 ▲

○：面瀬小学校

矢印は面瀬川